

火山噴火活動史と環境変遷、自然災害

熊本大学 大学院先端科学研究部 基礎科学部門 総合理学分野 准教授 宮縁 育夫

技術の紹介

わが国には111個の活火山が存在しており、幾度にもわたる激しい噴火活動によってさまざまな地形変化が発生するとともに、周辺地域の自然環境にも大きな影響を及ぼしています。また、火山周辺域では噴火活動終了後も長期間にわたって斜面崩壊や土石流などの自然災害が起っています。こうした火山地域を対象に、フィールドワークを主体とした以下のような研究を行っています。

1. テフクロロジー(火山灰層序学)による火山噴火活動史の解明
2. 火山周辺域の環境変遷に関する研究
3. 活火山における最近の噴火活動の推移と特徴に関する研究
4. 斜面崩壊・土石流・岩屑なだれなど自然災害発生メカニズムの解明



霧島火山新燃岳における2011年1月27日の準プリニー式噴火

2012年7月の九州北部豪雨に伴う阿蘇カルデラ東壁での斜面崩壊

私の研究は一つの狭い領域ではなく、火山学・地質学・地形学・水文学・生態学・考古学といった幅広い分野にわたっています。今後も多様な分野の研究者や技術者と協力して、火山とその周辺地域の環境変遷や自然災害をさまざまな視点でとらえる研究をめざします。

提供できる技術や応用例

中・長期噴火予測のための噴火履歴調査
火山噴火・豪雨・地震等に伴う自然災害調査

キーワード

火山、噴火、環境変遷、火口湖、自然災害

